

キタ！からきた



だより

第145号

※支部活動に関するご質問・ご要望や、事例検討会、一泊研修他、申し込みについては、以下のメールアドレスにご連絡下さい。
kitasibu2012@yahoo.co.jp 大阪北支部宛

「こんなところに社会福祉士がいた！」

＜大阪北支部・会員リレー紹介 033＞ レポーター（松本久美子）



今後の夢は対人援助職が子供達のなりたい職業になること、そしてゴルフを10年ぶりに再開されたことで、スコア“100”を切ることで語っていただいた原川忠士さんを紹介させていただきます。

現在、原川さんは居宅介護支援事業所のケアマネジャーとして勤務されています。今年で12年目となる大阪介護支援専門員協会東成支部の支部長を務め、今年度より大阪介護支援専門員協会の理事に就任されました。また、成年後見活動にもご尽力されています。

社会福祉士を目指すまでの背景には、介護老人保健施設の相談員を経て、ケアマネジャーの資格を取得。その後、施設ケアマネジャーとの兼任後、法人内移動で在宅支援のケアマネジャーに。そこで、『今後は在宅でのケアマネジャーとして働き続けたい』との気持ちが芽生えたとともに、実務の中で、不足していた知識を習得したい、知識と実務を結びつける資格は…社会福祉士！！と資格取得に奮闘する日々が始まったと



のことです。同時に、成年後見活動にも興味があったとのこと。勉強に励む中、すでに実務の経験があったこともあり、知識の裏付けがなされたことで、テキストの理解度は高かったと話されました。

大切に思っていることは、変わりゆく利用者さんの価値観にとことん寄り添い、利用者さんの気持ちに寄り添った支援を行うこと。また、相談しやすい雰囲気を作り出すことを胸に、日々お仕事をされています。長年のケアマネジャーの活躍の中で、ご自身の年代が変わるにつれ、当初は孫のように、甥っ子のように、そして、息子とってもらえる関係性を築くことを、利用者さんと関わる中で大切にされていると話されていました。

研修会予告『死を前にした人にあなたに何が出来ますか？』



援助職でもある私たちが人生の最終段階にある人やその家族と関わる場面に遭遇することも少なくないと思います。大阪北支部では そのような状態の方たちにも自信を持って支援にあたるようになるための第1歩として掲題の研修会を企画しています。

日程等は今後追ってご連絡させていただきます。乞うご期待ください。(*^ ^)v

【研修内容】

苦しんでいる人は、自分の苦しみをわかってくれる（と自分が感じる）相手がいるだけで、心が落ち着き、世の中が違って見えてきます。それは、苦しみを抱えた本人・家族に限らず、その苦しみと関わろうとする人にも同じことが言えます。対人援助とは、特定の立場や役割の人が一方的に提供するものではありません。あるときは誰かを気にかけ、あるときは誰かから気にかけてもらう。相互の関わりを通して学びあう。私たちがめざしているのは、一方通行ではなく、お互いが支えになるコミュニティです。苦しみに気づき、自分に何が出来るか考え行動し、誰かの力になることは、自己肯定感を育みます。しかし一方で、役に立てない、何もできない、そんな自分をふがいなく思うこともあるかもしれません。たとえ解決が困難な苦しみに遭遇したとしても、それまで気づけなかった大切な自分の支えに気づくとき、自分自身の存在をこれでよいと認め、自分を大切に思い、自分の苦しみとも向き合う可能性がひらけます。

又
祭

★令和4年2月より、大阪北支部の公式LINEアカウントの運用が開始されています。

現在は、大阪北支部会員の6名に1人は登録されていますよ！！

LINEの「友だち追加」から、ID検索「@712abvel」するかQRコードをスキャンしてください。

